

## 令和2年度の学校評価（自己評価）

令和2年度の重点目標		将来、テクノロ・バーサタイルとなりイノベーションを起こす人材を育成するために 1 進学・就職の両立ができる愛知総合工科高校づくり 2 生徒に寄り添う愛知総合工科高校づくり	
担当	担当の重点目標	具体的方策	評価結果と課題
1 総務部	ア 円滑な行事の企画や運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会で議論するとともに、関係する部署と連携を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・滞りなく行事を遂行することができた。しかし連絡を密に行ったため、情報交換に多くの時間を費やすことになった。事前に部内で検討した上での情報交換が望まれる。</li> </ul>
	イ 教員と保護者の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会等で積極的な意見交換を図る。</li> <li>・保護者がPTA活動を通じて、生徒の学びの場を広げられるようサポートする。</li> <li>・教員がPTA活動を通じて、生徒の学びの質を向上できるよう図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見交換をすることで職員間の共通理解が図られた。その分時間を必要とするので、記録を残し次回に生かす工夫が必要と思われる。</li> <li>・メールの積極的な活用が、保護者の不安を解消し、円滑な活動へ繋がった。教員側もチームで取り組み、部員間の相互理解を深める必要がある。</li> <li>・役割分担の細分化により保護者との関係を厚くすることができ、生徒へ還元できたと思われる。保護者・教員間で役割の線引きは必要と思われる。</li> </ul>
2 教務部	ア 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的な授業の実践により、知識・技術・技能の定着を図る。</li> <li>・朝学習のシステム確立を目指すことで、基礎学力醸成の一助とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話重視の授業展開は感染症の影響を受け易いため、ICT機器の活用を具体的な方策に加えた。教員のICT機器の活用率は格段に伸びているので、基礎学力の定着につなげることが今後の課題である。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で朝学習に取り組むことができず、スタディサプリに活路を見出した。来年度はスタディサプリの効果を検証し、家庭学習の時間確保の手段としてもっと活用したい。</li> </ul>
	イ 確実なデータ管理と分掌を超えた協働体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績や出欠データを着実に管理できるよう各学年や教科に依頼し、協働体制で書類作成を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績提出の方法を変えたことで入力ミスが大幅に減少した。欠席・欠課の入力ミスを減らすために出席簿や教務手帳の表示形式も見直したい。</li> </ul>
3 生徒指導部	ア 基本的な生活習慣の向上 ・挨拶の奨励	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面に配慮した「元気な挨拶」を心掛ける。</li> <li>・身だしなみをはじめとする自己管理が行える取組の機会を作る。</li> <li>・外部講師を招いての講話の機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶に関しては、多くの生徒が自発的にできるようになっている。更に元気に挨拶をしてくれるよう継続した指導をしたい。</li> <li>・身だしなみ指導においても、自発的な取組を助長することができた。再指導となる生徒も減り、合格するまでの時間も短縮できた。こちらも定着まで継続的な指導をしたい。</li> <li>・交通事故は、比較的少ない数で終始できたが、一方で遅刻が増えた。朝学習を実施しなかった影響等について検証し、来年度につなげていきたい。</li> </ul>
	イ 交通事故防止の活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年集会や全校集会の機会を捉えたり、リーフレットの活用をしたりして、交通事故の防止を訴え、「かけがえない自他の生命」の大切さを育む。</li> </ul>	

4 生徒会部	<p>ア 生徒会執行部、議会、各種委員会の活動を通じて将来につながるリーダーシップの獲得</p> <p>イ 生徒が主体となった、学校行事や部活動の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が行う会議にリーダーを設け、リーダーを通じて会議を進行していく。</li> <li>生徒会執行部会を週に1回以上、議会を月に1回程度、学校行事開催前に各行事の実行委員会を行う。</li> <li>学校行事実行委員会、部長会を開催し、生徒が主体的に行動できるような仕組み作りを構築する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭では新型コロナウイルス感染防止対策をとりつつ、新しい形での文化祭を開催することができた。</li> <li>オンラインでの行事の運営、開催のノウハウを得ることができた。</li> <li>オンラインでは得ることができない人間的な成長を学校行事を通じて伝えていくことが今後の課題である。</li> </ul>
5 保健部	<p>ア 自発的な環境美化意識の育成 ・日常の清掃活動の充実</p> <p>イ 健康教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃道具の充実を図るとともに安全点検を定期的実施する。</li> <li>生徒美化委員会活動を充実させる。</li> <li>個別指導を通して、自己の健康に関心をもたせ、自己管理能力の向上を図る。</li> <li>生徒保健委員会活動を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要望があった清掃道具は早期に用意した。また安全点検は定期的実施できた。</li> <li>年1回の校外奉仕活動のボランティアに多数の生徒が参加した。来年度も実施していきたい。</li> <li>「体調自己管理表」を回収・点検することで、個別に指導することはできたが、「体調自己管理表」の記入・回収が徹底されなかった。意義、必要性を理解させる指導が必要である。</li> <li>水質検査、熱中症予防啓発活動、安全点検は当番制で実施することができた。本年度は教員主導での活動とならざるを得なかった。</li> </ul>
6 図書部	<p>ア 魅力的な学校図書館の構築</p> <p>イ 主体的に取り組める図書委員会活動の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書選定委員会を中心に魅力的な図書館メディアの選定を行う。</li> <li>生徒及び教職員を引き付ける図書館施設と機能づくりを行う。</li> <li>従来の図書委員会活動に加えて、新たな図書館行事を開催し、図書委員に主体的な取組を促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新の図書情報を収集し、広い範囲から購入希望図書を募ることができた。今後は、各教科の授業で使える図書を充実していきたい。</li> <li>全校的な図書館行事である「図書館祭り」を実施し、図書館の魅力を広めることができた。来年度は内容をより充実したものになりたい。</li> <li>図書委員は、図書館行事の開催において主体的に取り組むことができた。今後はより活発な図書委員会活動を実現していきたい。</li> </ul>
7 進路指導部	<p>ア 企業の一次内定率や公務員希望者の合格率向上</p> <p>イ 企業内学園等（専攻科含む）合格60人を目標 ・ものづくり現場のリーダーの育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習、面接指導の充実に努める。</li> <li>キャリア教育を更に強化して、学習意欲をより喚起し、進路意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業一次内定率86.4%、公務員希望者8名中5名の合格、企業内学園18名、専攻科33名の合格（計51名）に留まり、重点目標を達成するには至っていない。</li> <li>今以上にキャリア教育の充実を学年、学科等と一丸となって行い、進路実現に向けて取り組んでいくことが必要である。</li> </ul>
8 進学部	<p>ア 3年後を見据えた計画的な進路指導の実現</p> <p>イ 国公立大学合格50人を目標 ・学びの継続による工業系リーダーの育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年間を見通した進路指導を行えるよう進路ホームルームや学年の進路行事を計画的に行う。</li> <li>進路検討会を通して、学年と学科間の連携を深め、生徒の進路実現に関する業務を円滑に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少しずつではあるが、計画的に進路LTが進んできている。しかし、本校生徒の進路希望は普通科高校と比べ多様であるので各学年の進学担当者の数を増やすなど、各学年の進路LTの充実に努めたい。</li> <li>新入試制度ではあったが、生徒たちはよく健闘した。特に、推薦入試では、新たな可能性が広がった。一方で、進路検討会をより機能させていくことが今後の課題である。</li> </ul>

9 工務部	ア 工業に関する興味・関心を高める	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種資格、検定試験について冊子を作成し、生徒へ情報発信する。</li> <li>愛知県職業教育技術顕彰やジュニアマイスター顕彰の取得を促す。</li> <li>課題研究の発表会や研究集録の作成を通して、工業科の取組を広く伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科との連携により、資格・検定試験取得のモデルプランなど、充実した冊子を作成した。次年度より1年生全員に配布する。</li> <li>学年・学科との連携により、顕彰の取得を生徒に促すことができ、ジュニアマイスター顕彰の取得者は100名を超えた。</li> <li>各学科の協力により、研究集録を作成することができた。次年度より配布できるようにする。</li> </ul>
10 広報部	ア 学校の活動実績や、本校生徒の自律性を広報  イ 自ら学び、考え、行動し続ける力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報、連絡、提供、交流などの情報公開機能を速報性、貯蓄性を意識してホームページで公開する。</li> <li>スコラ手帳を用いて、生活習慣を整え、先を見通す力の育成を目指す。</li> <li>企業連携・大学連携により、探究学習できるシステムの構築を目指す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内生徒に対し、課題や動画の配信をホームページ等で実現できた。本校への入学希望者に対しては、学校行事だけではなく、生徒たちの自然な日常の様子も積極的に配信していきたい。</li> <li>手帳を開くタイミングを指導していく必要がある。授業や実習等でいかに活用するか、他校の事例や手帳大会を通じて自己管理能力の向上を目指したい。</li> <li>遠隔授業の取組を企業や大学と連携し、GIGA スクール構想の一貫として今後も取り組みたい。</li> </ul>
11 1年生	ア 基本的な生活習慣の確立  イ 学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習の遅刻状況や早退、欠席の有無を把握し、該当生徒に、日々声掛けをし、生徒の基本的な生活習慣の確立を目指す。</li> <li>定期考査や基礎学力テストの結果を活用し、面接週間の際に、生徒に学習に関する指導、助言を行い、学力の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任が中心となり、日頃から生徒面談を行い、生徒情報を担任会で共有することで、生徒の基本的な生活習慣の確立ができた。この取組を次年度も継続していきたい。</li> <li>スタディサプリの導入と活用で、学力の定着を図ることができた。また、定期模試の結果からも学力の向上が確認できた。生徒全員の学力を向上させる手立てが必要である。</li> </ul>
12 2年生	ア 基本的な生活習慣の確立と主体性ある行動の意識付け  イ 進路実現に向けての準備	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校外でも主体的に責任ある行動がとれる大切さを説いていく。</li> <li>基礎学力の向上を進め、進路目標達成のための能力を育成する。</li> <li>進路指導部、各工業科と連携をとり、進路目標を定めさせて進路指導の充実を努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら考え正しい行動選択をするような意識は少しずつ高まったが、最高学年として、模範となる自覚ある言動が今後の課題である。</li> <li>スタディサプリの実施状況が、クラス毎で差が生まれてしまっていたので、それをなくしていきたい。</li> <li>進路先を希望で終わらせず、必ず実現させるための情報の収集や準備、努力が今後の一番の課題である。</li> </ul>
13 3年生	ア 基本的な生活習慣の充実  イ キャリア教育の結実	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝学習への取組を充実させるため、遅刻防止指導を徹底する。</li> <li>自ら挨拶が行えるように指導する。身だしなみ指導を一回で終わらせる。</li> <li>就職者の一次合格を100%、進学者の国公立合格者数は50名以上を目標とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>約4人に1人が3か年皆勤を達成したように、努力を続けた生徒も多数見られた。その一方で、特定の生徒の遅刻が目立った。家庭での協力を含め、早期かつ総合的な対応が必要だと思われる。</li> <li>進路実績に関しては、昨年度より低くなった。しかし、新型コロナウイルス、共通テスト初年度という状況下において数字には表れづらい個々の努力があったと思われる。総合的な評価手法の提案などが課題である。</li> </ul>

14 機械系学科	<p>ア 高等学校工業基礎力テスト・検定等の得点・合格率の向上</p> <p>イ 自ら考え、行動できる力の向上</p> <p>ウ 社会人基礎力の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら考えて進める授業を実践し、主体的な学びを促す。</li> <li>・問題集を活用し、知識、技能・技術の定着を図る。</li> <li>・実習の取組に PDCA サイクルを組み込み、主体的な学びを通して、自ら考えて行動する力を高める。</li> <li>・実習の振り返りを実施し、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果から、過半数の生徒が主体的に取り組むことの大切さを理解できたと考えられる。</li> <li>・多くの演習に取り組むことができ、知識の定着ができた。</li> <li>・実習において、どのように取り組むべきか自ら考えるようになり、生徒の実習に対する取り組み姿勢が良くなった。</li> <li>・前向きな取組ができるようになり、片付け等で声掛けをする場面が見受けられるなど、社会人基礎力が高まった。</li> </ul>
15 電気系学科	<p>ア 学習指導の充実</p> <p>イ 進路指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎、基本的な知識と技術の習得をさせる指導の充実を図る。</li> <li>・資格取得指導の充実を図る。</li> <li>・論理的思考力と創造力をもった技術者の育成を図る。</li> <li>・キャリア教育活動に参加させ、実践的な知識や技術を学ばせ、個々の生徒が目指す進路について調べさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年において、基礎、基本的な知識と技術の指導ができ、学習習慣の定着をさせることができた。</li> <li>・成績不振者へのきめ細かな指導もされ、成績不振者を減少させることができた。</li> <li>・2年生を中心とした資格指導により、国家資格合格者が昨年を上回ることができた。</li> <li>・希望する進路先への進路実現が概ねできた。</li> <li>・コロナ禍におけるキャリア教育の実践方法の検討が今後の課題である。</li> </ul>
16 建設科	<p>ア 工業教育の強化</p> <p>イ 進学・就職の両立ができる学科づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格、検定試験の指導を充実し、建設分野に対する興味・関心を高めさせ、学習習慣の定着と学力の向上を図る。</li> <li>・産業界や大学などの外部機関と連携して、知識・技術の習得とコミュニケーション能力の向上を図る。</li> <li>・国公立大学への推薦進学、技術職公務員や企業（技術職）への就職を支援する進路指導体制を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術士第一次試験（2年連続）、2級土木施工管理技術（全員）、2級建築施工管理技術（6名/昨年1名）等、例年以上の成果をあげた。</li> <li>・外部機関との連携が大きく制限されたが学校内でのアンケート調査やパネル掲示等で、生徒の活動の場を確保した。</li> <li>・企業や公務員への就職指導については良好であった。国公立大学や私立大学への進学指導の在り方については一層の改善が必要である。</li> </ul>
17 応用化学科	<p>ア 確かな学力を身に付けるための学習指導の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学の特性を生かし、生徒が好奇心を抱く授業展開を行う。</li> <li>・実習、課題研究では生徒自らが前向きに挑戦できるように、教員がアドバイスを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味、関心を抱ける授業展開を行えた。</li> <li>・「課題研究」では、学科の目標を達成でき、生徒の好奇心の向上にも繋げられた。</li> </ul>
18 デザイン工学科	<p>ア 進路指導の充実 ・1・2年生への対応  ・3年生への対応</p> <p>イ 地域、企業、大学との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン業界や大学の特色などの情報を提供し、希望進路を定める。</li> <li>・進路面談を充実させ、多様な進路に対応した補習を実施するなど、進路実現に取り組む。</li> <li>・学校内にとどまらず、社会の情勢を踏まえた学習に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1～3年生と面接し、生徒の気持ちや学習状況を更新するとともに、適切な進路指導をすることができた。また、就職試験に向けての面接指導やポートフォリオづくりの指導、進学に向けての実技指導などを充実させ、生徒の進路実現に貢献することができた。</li> <li>・企業、大学との連携は難しいところがあったが、授業やLTを利用した進路指導を充実させて補うことができた。</li> </ul>